# 畑作

## ねぎ

**○病害虫が発生しやすい時期となります。**

圃場を確認しながら適期防除に努めましょう。

※今年は融雪が早いため、特に注意が必要となります。

**【害虫】**

タネバエ・タマネギバエ

・６月にかけて発生量が多くなります。定植時の薬効が切れる頃ですので、早期に防除を行いましょう。

例）スタークル灌注であれば、定植後20日くらいで粒剤による２回目の防除が必要となります。（害虫の発生が早まっている＋ねぎに薬剤が吸収されるまでの時間を考慮）

**【発生しやすい条件】**

・定植から25日以上経過（追加防除が遅れた）

・生堆肥（完熟していない）の投入

・ねぎの連作（残渣がすき込まれた、昨年も発生したなど）

防除対策（ネギハモグリバエ・ネギアザミウマと同時防除薬剤）ダントツ粒剤　３～６kg／10ａ

**【病害】**

今後の防除目標

①６月に入ると、軟腐病・白絹病の防除時期となります。

・６月上旬　→　夏ねぎ　１回目防除

・６月下旬　→　夏ねぎ　２回目防除

秋冬ねぎ　１回目防除

②６月中旬（梅雨入り前）のべと病予防を忘れずに！

※近年は「さび病」も多発しますので要注意。

## きゃべつ

**○害虫の防除をお願いします。**

アオムシ・コナガの発生に注意してください。５月中旬から６月上旬にかけて、気温が上昇してくると発生量が増えてきます。

定植時に処理した薬効も切れてきますので、早めの防除を行いましょう。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ５月中旬頃 | → | プレバソンフロアブル５ | 2,000倍液 |
| ５月下旬頃 | → | ジャックポット顆粒水和剤 | 1,000倍液 |
| ６月上旬頃 | → | フェニックス顆粒水和剤 | 2,000倍液 |

## アスパラガス

**○定植へ向けて**

定植をするために畑の準備をしましょう。堆肥を１反歩あたり２ｔの散布を行ないましょう。元肥は窒素成分で１反歩あたり20kgとします。根域を確保するために高畝にし、マルチを張りましょう。

露地アスパラでは、春芽収穫後に立茎肥として、窒素成分で１反歩あたり10kgの追肥を行ないましょう。

## みょうが

**○高温対策について**

高温対策として敷きわらは厚めにしきましょう。

また、根茎腐敗苗対策として５月下旬から６月上旬にかけて１回目のユニフォーム粒剤の散布をお願いします。ユニフォーム粒剤の散布は雨降り前がおすすめです。なお10ａ当たりの散布量は、18kgです。



牡牛座（4・20～5・20）　プライベートの充実に意識を向けるとグッド。やるべき作業を早めに片付けて、好きなことや趣味に打ち込んで